

[総会挨拶]

これからの情報システム学会の活動にむけて

北城 恪太郎

総会の終わりに会長として、ひとことご挨拶申し上げたいと思います。

会長を務めさせていただいて、3年になります。この間、副会長の方々、また理事・監事の方々には、この学会の発展に大変ご尽力いただきまして、本当にありがとうございます。私は何も十分なことが出来ておりませんが、発足時に百数十名であった会員が5月の理事会が終わったところで、正会員、学生会員、賛助会員を含めて500名を超えました。正会員は431名ということですから、正会員だけでも今年度末には500名になるかと期待しております。この間の会員の方々のご努力に心から敬意を表したいと思います。

いっぽう、研究会活動も活発に行なっただきました。この学会の特徴として、大学関係だけではなく、産業界も共に活動するということに意義があると思います。たとえば、神沼先生には論文の書き方を教えていただいております。産業界は、通常論文をあまり書きませんので、そういう意味では、論文の書き方を教えていただくというのは、産業界と学会がともに活動するということで、この学会の特徴があるのではないかと考えております。

今の経済環境を考えてみますと、情報システムの果たす役割はますます大きくなっており、目に見えるところに限らず、あらゆるところで情報システムが利用されているわけですが、最近のいろんな問題を見てみますと、単

に技術的な問題と言うより、技術をどう活用するのか、いわゆる人間系とかあるいは社会との関わりの中でいろんな問題が起きていると考えられます。人間の判断とか、組織運営の能力には限りがありますので、そういうことも含めてシステムをどう作っていくのか、また運用していくのかというところに大きな問題があると思います。そういう意味で、引き続き産業界の方に積極的に参加していただき、産業界が抱える問題を呈示していただき、それを学会の方々とともに検討していくことが出来ればと思っています。

また、日本を含めて世界の国々が、イノベーションによって経済の発展を目指すということを考えているわけで、現在の社会には環境問題をはじめエネルギーの制約など、いろんな問題があるわけですが、そういったものを解決するためにも、イノベーション、変革、過去の延長ではない新しい価値を作り出すことが大事だと思います。このイノベーションを起こす種あるいは基盤として技術が大変発展している情報システムやネットワークを上手く活用するというのが、イノベーションのためにも大事だと思いますので、そういった観点でも皆さんとともに、これから取り組んでいきたいと思っております。

それからもう一点、これはシステムと人間との関係と言いましても、やはりこのシステムを利用する技術を高めていくということで、技術を活用する人材をどう育成するかということも日本の課題だと思います。最近の新聞などで、日本のシステムメーカーが若い社員の育成のために、インドに送っていると報道されています。

Kakutaro Kitashiro

情報システム学会会長

[総会挨拶] 2008年5月17日

© 情報システム学会

これには、技術だけではなく、多国籍の環境でいわゆる国際的な環境の中で仕事の進め方を学ぶ、あるいは語学の研修という意味もあるのだと思います。しかし、情報技術、特に利用技術の面で、必ずしも日本は、産業界と学会の連携が十分に取られていないと思います。最近では中国とかインドの方がアメリカからの新しい利用技術をうまく活用しているように見えます。特に我々の感じる場所では、システムの要件をモデリングする技術であるとか、プロジェクトを管理する能力であるとか、アーキテクチャとかいろんなところで、我々はさらに産業界のニーズに応える人材を育成することが大事だと思います。我々の学会でもいろんな論文等も出されていますが、これから皆さんと

もに社会の発展に貢献する人材、あるいはイノベーションの担い手になる人材をどう育てていくか、人材育成の面でも皆さんと一緒に取り組んでいきたいと思っています。

3年が終わりました、これから4年目に入ります。引き続き新しく選ばれた副会長の方々、理事・監事の方々とともに、この学会を発展させて日本社会の発展に貢献したい、あるいは、情報システムが社会の中でよりよく理解され、社会の発展に貢献するように活動ができればと思います。本日はご参加いただきまして、本当にありがとうございました。

これからまた、2つの講演も控えておりますので、それにも期待したいと思います。どうもありがとうございました。(拍手)